

# 大阪教育大学附属池田中学校

[大阪]

学童 / 中学チーム

File  
第23回

★ 中学 ★



## “中学野球版”ボトムアップを体現中 半素人の秀才集団が大阪Vを射程圏に

国立の超進学校が西の都で旋風を巻き起こさんとしている。昨年秋の地区大会で初優勝、新人戦の大阪府王者をこの2月には練習試合で下してみせた。新2・3年生で計20人、そのおよそ半分は中学から野球を始めたばかりで、放課後に校庭が使えるのは週2日のみ。それでなぜ、ここまで台頭しているのか。大阪国際空港もある池田市へ、陸路・阪神電車で向かった。写真&文◎大久保克哉

「なぜ、ゴロを打ちますか？」  
「三塁走者をかえすためです」  
「どこにゴロを打ちますか？」  
「できるだけ逆方向に」  
「追い込まれたらどうしますか？」  
「ノーステップで打ちます」  
「そのためのティー打撃と、ケース打撃をします」  
「挙手をして口々に答えているのは選手たち。そして質問をしているのも、先生ではない。主将や副主将らリーダーたちだ。」

監督の森田祐介先生は、バックネット裏や外野後方の校舎前にぼつりと立っている。彼らの声がそこまで届くはずもない。が、これが大阪教育大学附属池田中（以降、附中）の日常の練習風景だという。選手が主役！ よく聞くフレーズだが、ここまでそれを実現できている中学校の野球部がほかにあるだろうか。

夏の終わりに珍しい風が吹いた。2015年8月の「引退試合」。3年生を送り出す慣例行事が、すべての始まりだった。「久しぶりに会った3年生たちが、ものすごく楽しそうにプレーして

いたんです。あの笑顔を奪っていたのはオレなんだ、方向性が間違っていたな、と……」  
そう振り返る森田先生は、高校、大学に社会人クラブでもプレーした筋金入りの野球人。さて、己の中学時代はどうだったのかと思いついてみると、コーチからの一言と感激がよみがえってきた。「オマエの取り柄は、野球をすごく楽しそうにすることや」。

そうだ、いまこの目の前にいる子どもたちも、好きで野球をやっているんや！  
原点。当たり前のことにあらためて気付いて以来、附中のグラウンドから野球部顧問の怒号は聞かれなくなった。

代わりに森田先生が選手たちに提示したのは「大阪制覇」という大目標。そしてそれを達成する手段としての『ボトムアップ理論』だった。自らの経験や技術はひとまず隅に置いて、今ある環境や生徒たちの日常を精査し、考えて調べも尽くして出た結論だ。

「ボトムアップ」とは、指揮官のひと声で万事が決まり、チームや選手が動くという、野球部のよくある姿（※トップダウン）の真逆。

【2016メンバーと役割】		
植田 旬	③	主将
村上 大	③	副主将
西宇 陽	③	3年リーダー
伊藤 和都	③	グラブ・道具確認
廣田 将也	③	試合後ベンチ確認
石戸 景	③	練習時ベンチ確認
田中 大暁	③	試合前アップ
岸田 直樹	③	水筒確認
藤本有次郎	②	2年リーダー
小南虎太郎	②	2年リーダー
迫田 周大	②	2年リーダー
吉川 知輝	②	練習後ベンチ確認
吉本 駿	②	ボール探索
井上 雄大	②	ボール探索
池田 素也	②	書記
藤田 寛大	②	試合時ベンチ確認
角田 憲佑	②	試合後ベンチ確認
長谷川智哉	②	体育館・紙ボール
伊藤 樹	②	体育館・紙ボール
橋 涼太	②	練習後ベンチ確認

TEAM DATA
【開校】1947年(昭和22年)
【部員構成】3年8人 / 2年12人 (2016年度)
【主な戦績】12年=府大会出場 / 15年=秋季高槻・島本大会優勝